

作成日： 2008年8月1日
改訂日： 2019年11月14日

安 全 デ ー タ シ ー ト

1.製品及び会社情報

製品名 断熱モルタル
会社名 株式会社 トクヤマエムテック
住所 東京都中央区日本橋本町 4-8-16KDX 新日本橋駅前ビル3F
担当部門 開発技術グループ
電話番号 03-6265-1075
FAX番号 06-6265-1073

2.危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高压ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過酸化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類できない 区分外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入：ガス） 急性毒性（吸入：蒸気） 急性毒性（吸入：粉塵） 急性毒性（吸入：ミスト） 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） 吸引性呼吸器有害性	分類できない 分類できない 分類対象外 分類できない 区分外 区分外 区分 1 区分 1 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分 3（気道刺激性） 区分 1（呼吸器） 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性） 水生環境有害性（長期間） オゾン層への有害性	分類できない 分類できない 分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語
危険有害性情報

危険
重篤な皮膚の薬傷
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害

注意書き

【安全対策】

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
取り扱い後は手・顔・口をよく洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護長靴/保護眼鏡/保護面/防じんマスクを着用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急処置】

特別な処置が必要である。(項目4. 応急措置を参照)

【保管】

湿気の少ない場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分:混合物

成分名	CASNo.	官報公示整理番号 (化審法)	含有率(%)
ポルトランドセメント	65997-15-1	9-545-2	20～30
アクリル系超軽量微小中空体	既存	—	10～20
エチレン酢酸ビニル共重合体	既存	6-6	4～5
エチレングリコール	107-21-1	2-230	0.2～0.5
酢酸ビニル	108-05-4	2-728	0.01～0.02
ニュートラル潤滑用基油(鉱油)	既存	既存	0.01～0.02
シラスバルーン	既存	—	2～6
水	7732-18-5	—	30～50
その他(繊維等)	—	—	1～2

- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化学物質排出把握管理促進法)の第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質には該当しない。
- ・労働安全衛生法： 通知・表示対象物： ポルトランドセメント
エチレングリコール 酢酸ビニル 鉱油

※厚生労働省指針値14物質(アセトアルデヒド・フタル酸ジ-n-ブチル・パラジクロロベンゼン・エチルベンゼン・ホルムアルデヒド・n-ナール・スチレン・テトラエカン・トルエン・キシレン・クロロピリホス・フェノール)・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル・ダイアミン)は含まない。

※アスベストに類する物質は含まない。

4.応急措置

- 吸引した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
- 眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合： 水でよく口の中を洗浄した後、医療処置を受ける。被害者の意識が朦朧としている場合、意識がない場合は、無理に吐かせないで速やかに医療処置を受ける。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
気分が悪いときは医師に連絡し、医師の診断／手当てを受けること。

5.火災時の措置

- 消火剤： 不燃物であり、製品に特定の消火剤はない。
- 火災時の特有の危険有害性： 注水により高いアルカリ性の溶液が流出する恐れがある。
- 消火方法： 不燃物であるが、周辺の火災時は一般火災の消火方法による。
注水時は飛散防止に配慮する。
- 消火を行う者の保護： 適切な保護具(耐熱性衣類など)を着用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項
保護具及び緊急時措置： 回収作業には保護手袋、保護長靴、保護メガネ、防塵マスクなど適切な保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項： 粉じんが飛散しないようにする。
漏出した製品が河川などに排出され、環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように注意する。濃厚な洗浄水は中和、希釈処理などにより、河川などに直接流出しないように対策をとる。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材： 漏出、飛散した場合には、掃除機、スコップ、箒などによりできるだけ粉体の状態で回収し、廃棄まで容器で保管する。やむをえず床面などに残ったものは水で洗浄する。洗浄水は回収し、中和処理などにより適切に処理する。
回収物や回収した洗浄水は、「項目13.廃棄上の注意」に従い、廃棄又は排水する。

7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策
取扱者のばく露防止： 眼、皮膚などへの接触を避けるため、適切な保護具(保護手袋、保護長靴、保護メガネ、防塵マスクなど)を着用する。取扱い後は顔、手、口などを水洗する。
- 局所排気・全体排気： 屋内で取扱う場合は換気に注意する。
- 安全取扱注意事項： 破袋などにつながるような粗暴な取扱いをしない。
アルカリ性なので酸性の製品との接触を避ける。
- 保管
安全な保管条件
技術的対策： 乾燥した場所に保管する。
- 混触禁止物質との分離： 水と接触の恐れがない場所に貯蔵すること。
- 推奨する安全な容器包装資材： 防湿性のある容器、包装。
- 保管方法： 施設その他の方法により、部外者が触れない措置を講ずること。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度: (労働安全衛生法・ 作業環境測定基準)	土石、岩石、鉱物、金属または炭素の粉じん E=3.0/(1.19Q+1) E=管理濃度(mg/m ³) Q=当該粉じんの遊離けい酸含有率(%)
	エチレングリコール: 設定されていない
	酢酸ビニル: 設定されていない
	鉱油: 設定されていない

許容濃度:

日本産業衛生学会(2017年)

第2種粉じん:

吸入性粉じん 1mg/m³(TWA)
総粉じん 4mg/m³(TWA)

エチレングリコール: 100mg/kg (ACGIH1999)

酢酸ビニル: TLV-TWA 10ppm (ACGIH2002)
TLV-STEL 15ppm (ACGIH2002)

鉱油: TLV-TWA 5mg/m³ (ACGIH2005)
TLV-STEL 10mg/m³ (ACGIH2005) *鉱油ミスト

設備対策:

室内で取扱う場合は、管理濃度以下にするために十分な能力を有する。
換気装置を備える。
多量に取扱う場合は集塵機を設置する。

保護具

呼吸用保護具:

防塵マスク

手の保護具:

不浸透性保護手袋

眼の保護具:

保護メガネ(普通メガネ型、側板付き普通メガネ型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の

保護具:

保護長靴、保護衣

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

	主材	混和液
形状:	粉末	液体
色:	灰白色	乳白色
臭い:	無臭	微酢酸ビニル臭
pH:	水と接触すると12~13	4.0~6.5(水で50%希釈)
融点:	約1350℃	
溶媒に対する溶解性:	水に難溶	水で無限大に希釈可能
その他のデータ:	爆発性なし、水硬性	爆発性なし

10.安定性及び反応性

	主材	混和液
反応性:	水硬性	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定。
化学的安定性:	通常の取扱いにおいては安定であり、危険性はない。水と反応して安定固化する。	知見なし。
危険有害反応可能性		
避けるべき条件:	高湿度	凍結させないこと。
混触危険物質:	情報なし。	情報なし。
危険有害な分解生成物:	情報なし。	情報なし。

11.有害性情報

化学物質の有害性情報

ポルトランドセメント

急性毒性 (経口)

(経皮)

(吸入: 粉塵・ミスト):

(吸入: ガス・蒸気):

データ不足のため、分類できない。

データ不足のため、分類できない。

データ不足のため、分類できない。

固体のため、分類対象外。

皮膚腐食性/刺激性,

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:

水と接触すると強アルカリ性(pH12~13)を呈し、眼、鼻、皮膚に対し刺激性がある。また眼の粘膜、鼻の内部組織、皮膚に炎症を起こす可能性があるため、区分1とした。

呼吸器感受性,

皮膚感受性:

データ不足のため、分類できない。

極微量のクロム化合物が含まれており、六価クロムに対して敏感である場合にアレルギーが起こる可能性がある。

生殖細胞変異原性:

データ不足のため、分類できない。

発がん性:

データ不足のため、分類できない。

生殖毒性:

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

本物質は気道刺激性があるとの報告がある(*1)が、その他の情報は無い。以上より、区分3(気道刺激性)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 吸入経路では、ヒトにおいて良性的塵肺症を生じ、気管支炎、呼吸困難、咳、痰、肺気腫、胸痛がみられるとの報告がある(*2、*3)。実験動物についての有用な情報はない。したがって、呼吸器が標的臓器と考えられ、ヒトにおいてみられていることから区分1(呼吸器)とした。

吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため、分類できない。

水生環境有害性(急性) : データが無いため、分類できない。

水生環境有害性(長期間) : データが無いため、分類できない。

エチレングリコール

急性毒性: 経口 ラットを用いた経口投与試験の LD₅₀ = 4000~13400mg/kgの範囲内で報告がある。

(6140mg/kg(PATTY(6th, 2012)), 8540mg/kg(DFGOT vol.4(1992)), PATTY(6th, 2012), 10800mg/kg(DFGOT vol.4(1992)), PATTY(6th, 2012)) 11300mg/kg(PATTY(6th, 2012)), 13000mg/kg, 5890-13400mg/kg(SIDS(2009))

経皮 ラットのLD50値として、2800mg/kg(ACGIH(7th, 2001)), ウサギのLD50値として 9530mg/kg(ACGIH(7th, 2001), PATTY(6th, 2012)), 10600mg/kg(CICAD45(2002), CEPA(2000), NITE初期リスク評価書(2007)), 10612, g/kg(環境省リスク評価第3巻(2004))

吸入 ラットのLC50値(1時間)として、10.9mg/L(4時間換算値:2.7mg/L) PARTY(6th, 2012)

皮膚腐食性・刺激性: ヒト103人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液0.2mlの適用により刺激性が見られた。(SIDS(2009))

眼に対する重篤な損傷・刺激性: ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある。(SIDS(2009)) また液体や蒸気の1回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす。(CICAD45(2002)), 初期リスク評価書(2007) CEPA(2000))

呼吸器感受性: データなし。
皮膚感受性: ヒトに対する報告が2件あり、本物質5%又は25%水溶液を11人に適用したところ、1人(レンズ切断作業で25%水溶液を扱い、腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した31歳女性、ニッケルアレルギーあり)に激しいアレルギー反応を示したが、他の10名にアレルギー反応はみられなかった。(DFGOT vol.4(1992))

生殖細胞変位原性: in vivoでは、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性。(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS(2009)、ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(2010)、CEPA(2000)) 細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS(2009)、ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(2010)、CEPA(2000))

発がん性: ACGIHではA4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類。

生殖毒性: ラットを用いた経口経路(混餌)での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告。(ATSDR(2010)、(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、CICAD45(2002))

特定標的臓器毒性:(単回ばく露) ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階(摂取から0.5-12時間):中枢神経系への影響(中毒、嗜眠、痙攣、昏睡)及び代謝障害(アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階(摂取から12-24時間):心臓及び肺への影響(頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階(摂取から24-72時間):腎毒性(シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全)である。(SIDS(2009)、CEPA(2000)、環境省リスク評価第3巻(2004))。さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階をおき、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む)が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある。(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol.4(1992))。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3g/kgbw(CEPA(2000))や1.6g/kg bw(SIDS(2009))、NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))

特定標的臓器毒性:(反復ばく露) ヒトでは、男性ボランティアに69mg/m³までの濃度を毎日20-22時間、1ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった。(環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS(2009)、ATRDR(2010))

吸引性呼吸器有害性: データなし。

酢酸ビニル

急性毒性: 経口 ラットのLD50値2900mg/kg(環境省リスク評価第2巻(2003)), 1600-3480mg/kg(CERI・NITE有害性評価書(2006)), 2920-3730mg/kg(ECETOC JACCNo.18(1991)), 3730mg/kg(DFGOT vol.21(2005))

経皮 ウサギのLD50値2335-7470mg/kg(CERI/NITE有害性評価書(2006)), 2340mg/kg(ECETOC JACC No.18(1991)), >5000mg/kg(ECETOC JACC No.18(1991)), 7440mg/kg(DFGOT vol.21(2005))

吸入	ラットのLC50値(4時間)11.4mg/L(換算値:3184ppm、環境省リスク評価第2巻(2003))、3200-4490ppm(CERI・NITE有害性評価書(2006))、4000ppm、3680ppm(いずれもECETOC JACC No.18(1991))、4650ppm(ATSDR(1992))
皮膚腐食性・刺激性:	ヒトでは、ボランティアによるパッチテストにおいて刺激性はみられない(ATRDR(1992))が、本物質の生産工場の労働者において21人中3人に皮膚の刺激性と発疹が見られている。(ECETOC JACC No.18(1991)) ウサギを用いた7つの皮膚刺激性試験のうち2つの試験は「刺激性なし」(ECETOC JACC No.18(1991)、ATRDR(1992))であるが、3つの試験でそれぞれ「軽度の刺激」(CERI・NITE有害性評価書(2006))、「軽度の浮腫」の試験では「浮腫(ドレイズコア値 4)と皮下出血、皮膚の黄変」(DFGOT vol.21 (2005))との記載がある。
眼に対する重篤な損傷刺激性:	ヒトでは本物質との直接接触により角膜熱傷がおきたが、48時間以内に回復した例が報告されており、ウサギを用いた眼刺激性試験では、「強度の刺激性」(CERI・NITE有害性評価書(2006))、「角膜混濁、発赤、結膜の重度の浮腫(8日後に消失)」(DFGOT vol.21(2005))
呼吸器感受性: 皮膚感受性:	データなし。 パブリックコメントにあるOECD SIDS SIAPのsummaryに「エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコールは皮膚感受性を引き起こさない”EG、DEG、TEG and tetraEG have not induced skin sensitization.”」
生殖細胞変位原性:	in vivoにおいて、ラットの骨髄を用いた小核試験(NTP DB (ACCESS ON 6.2009))、マウスの骨髄を用いた小核試験(CERI・NITE有害性情報(2006))、ラットの骨髄を用いた染色体異常試験(DFGOT vol.21(2005))、マウスの骨髄を用いた姉妹染色分体交換試験(CERI・NITE有害性評価書(2006))でそれぞれ陽性結果があり、区分2とした。 なお、in vitroにおいては細菌を用いた復帰突然変異試験で陰性(CERI・NITE有害性評価書(2006))、NTP DB (ACCESS ON 6.2009)、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験(CERI・NITE有害性評価書(2006))、マウスリンパ種細胞を用いた突然変異試験(CERI・NITE有害性評価書(2006))、ヒトリンパ球及びCHO細胞を用いた姉妹染色分体交換試験(CERI・NITE有害性評価書(2006))、NITE初期リスク評価書No.60(2005))、ハムスター培養細胞を用いた形質転換試験(NITE初期リスク評価書No.60(2005))でそれぞれ陽性である。
発がん性:	IARC(1995)で2B、ACGIH(1992(ACGIH-TLV(2009))でA3、産衛学会(2008)で2Bに分類されていることから、区分2とした。動物試験ではラット及びマウスを用いた104週間経口投与試験において、ラットの雄に口腔の扁平上皮癌、雌に口腔と食道の扁平上皮癌の発生が認められ、マウスにおいても雌雄に口腔と前胃の扁平上皮癌と扁平上皮乳頭腫、食道と喉頭に扁平上皮癌、雌の食道に扁平上皮乳頭腫が認められている。(厚生労働省がん原性試験(1995)、NITE初期リスク評価書No.60(2005))。ラット及びマウスを用いた2年間吸入ばく露試験においては、ラットの雄に鼻腔の乳頭腫及び扁平上皮癌、雌に鼻腔の扁平上皮癌と喉頭の扁平上皮癌が認められ、マウスでは雄の肺に扁平上皮癌が見られている。(NITE初期リスク評価書No.60(2005))
生殖毒性:	GHS国連文書3.7.2.5.5には作用機序がヒトには該当しないことが示された場合には、実験動物の生殖に有害影響を生じるような物質でも分類すべきでない」と記載。
特定標的臓器毒性: (単回ばく露)	ヒトについてはボランティアによる吸入ばく露試験において「呼吸器に対する刺激性が認められた」(CERI・NITE有害性評価書(2006))、「鼻と喉を刺激する」(ATRDR(1992))との記載。動物実験では、ラットを用いた経口投与試験において「中枢神経系の抑制」(NITE初期リスク評価書No.60(2005))との記載がある。また、ヒトに対する影響として「粘膜、皮膚を刺激し、高濃度でばく露されると麻酔作用がある」(厚労省指針(2005))
特定標的臓器毒性: (反復ばく露)	ラットを用いた2年間吸入ばく露試験において「鼻腔上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成」、マウスを用いた13週間吸入ばく露試験において「鼻状肺炎と鼻炎」。(CERI・NITE有害性評価書(2006))、マウスを用いた2年間吸入ばく露試験において「鼻腔上皮の萎縮、粘液分泌線の萎縮」(いずれもCERI・NITE有害性評価書(2006))
吸引性呼吸器有害性:	データなし。
鉱油	
急性毒性:	経口 ラットLD50>5000mg/kg (IUCLID(2000)) 経皮 ラットLD50>5000mg/kg (IUCLID(2001)) 吸入 ラットLD50=2.18mg/l (IUCLID(2002))
皮膚腐食性・刺激性:	ウサギを用いた試験において軽度の刺激性を認めている複数の報告。(IUCLID(2000))
眼に対する重篤な損傷刺激性:	ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述。(IUCLID(2000))
呼吸器感受性: 皮膚感受性:	データなし。 モルモットを用いたOECD GUIDELINE 406に準拠した複数の試験において、いずれも感受性なしとの結果が得られている。(IUCLID(2000))
生殖細胞変位原性:	ラットを用いた細胞遺伝学的試験(染色体異常試験 体細胞 in vivo変異原性試験)における異常細胞の増加(IUCLID(2000))に加え、職業ばく露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。(IARC suppl.7(1987))
発がん性:	IARC(1987)により未精製または軽度処理油1はGroup1、高精度製油ではGroup3に分類。
生殖毒性:	データなし。

特定標的臓器毒性: (単回ばく露)	ラットに吸入ばく露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化(詳細不明)が用量依存的(1.51~5.05mg/ℓ)に見られたとの記述。(IUCLID(2000))
特定標的臓器毒性: (反復ばく露)	長年にわたり鉱油、あるいはミストのばく露を受けたヒトで肺線維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告され(ACGIH(2001)、IARC33(1984)、EHC20(1982)、また疫学調査において切削油への職業ばく露により重度の毛嚢炎の発生が報告されている。(IARC33(1984))
吸引性呼吸器有害性:	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性:	情報なし。
残留性・分解性:	情報なし。
生態蓄積性:	情報なし。
土壌中の移動性:	土と混合した改良土からは、土壌環境基準を超える六価クロムが溶出する 場合があるので、事前に試験を行い溶出量を確認する。 水域へ移動する可能性がある。
オゾン層への有害性:	情報なし。
(エチレングリコール)	
水性環境急性有害性:	藻類72時間 ErC50 > 1000mg/ℓ、甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50 > 1120mg/ℓ、魚類(メダカ)96時間 LC50 > 100mg/ℓ(いずれも環境省生態影響試験、2001、環境省リスク評価第3巻(2004)、NITE初期リスク評価書(2007))
水性環境慢性有害性:	急速分解性であり、(14日後のBOD分解度:90%(既存点検、1998)、甲殻類(ニセネコミジンコ)の7日間MATC=4.2mg/ℓ(環境省リスク評価第3巻(2004)) 推定される。(log Kow = 0.73) (PHYSROP Database、2005)
オゾン層への有害性:	データなし。
(酢酸ビニル)	
水性環境急性有害性:	魚類(ヒメダカ)での96時間LC50=2.39mg/ℓ(NITE初期リスク評価書(2005))
水性環境慢性有害性:	急速分解性があり(BODによる分解度:90%(既存点検、1998)、かつ生物蓄積性が低いと推定される。(log Kow=0.73(PHYSROP Database(2009)))
オゾン層への有害性:	データなし。
(鉱油)	
水性環境急性有害性:	データなし。
水性環境慢性有害性:	データなし。
オゾン層への有害性:	データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	固化後、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき廃棄する。 洗浄水などの廃水は、水質汚濁防止法などの関連諸法令に適合するように 十分留意しなければならない。 産業廃棄物管理表(マニフェスト)を交付して委託し、関係法令を遵守して 適正に処理する。
汚染容器及び包装:	内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処分する。 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

輸送に関する規制及び分類に関する情報	
陸上:	消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの 該当法律に定められるところに従うこと。
海上:	船舶安全法に定められるところに従うこと。
航空:	航空法に定められるところに従うこと。
輸送の特定の安全対策 及び条件:	粉じんのたたない方法で輸送する。 破袋、損傷、容器・包装からの漏出、転倒、落下などの荷崩れ防止を確実に 湿気、水濡れに注意する。

15. 適用法令

・廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
・労働安全衛生法(粉じん障害防止規則)	
・労働安全衛生法 表示対象物質・通知対象物質	: ポルトランドセメント : エチレングリコール : 酢酸ビニル : 鉱油
・じん肺法	
・化学物質排出把握管理促進法:	第一種、第二種指定化学物質に該当しない。
・毒物及び劇物取締法:	該当しない。
・消防法:	該当しない。

16.その他の情報

参考文献:

- nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- *1 ACGIH 7th (2010)
 - *2 DFGOT vol.14 (2000)
 - *3 DFGOT vol.11 (1998)

本データシートはJIS Z 7253:2012[GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)]に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点で当社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データなどに基づいて作成したものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。

本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、当社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。

取扱事業者は本データシートを参考として個々の取扱い、用途、用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取扱い下さい。

記載内容の問い合わせ先

株式会社トクヤマエムテック 開発技術グループ

電話番号 : 03-6265-1075

FAX番号 : 03-6265-1073

住 所 : 東京都中央区日本橋本町 4-8-16 KDX新日本橋駅前ビル3F